

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290400359		
法人名	医療法人社団 淳生会		
事業所名	グループホーム けやの杜		
所在地	長崎県諫早市多良見町化屋1840番地		
自己評価作成日	令和 5年 12月 15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、医療法人社団淳生会が令和2年4月に開設しました。国道34号線沿いでJR喜々津駅から近く、交通の利便性の高い場所にあります。慈恵病院、慈恵病院訪問看護ステーションと連携し医療体制も充実しています。「入居者様、ご家族様が、けやの杜を利用してよかったと喜ばれること」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースに合わせ、ゆっくりと生活して頂けるよう支援を行っています。コロナ禍での開設で地域交流が困難な状況が続いていますが、コロナ終息後は、地域交流、地域行事の参加、ボランティアの受入れ等を行い、地域に開かれた事業所創りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人社団淳生会を母体として2020年4月に開所したホームで、国道34号線沿いの利便性の良い場所に立地している。ホームの近隣にはコンビニエンスストアやドラッグストアのほか、神社や公園があり、交通の便も良く生活しやすい環境にある。同法人が運営する慈恵病院、訪問看護事業所、介護老人保健施設など関連施設と連携し、入居者の健康管理や急変時の対応に万全を期している。理念には「利用者様、ご家族様が『けやの杜』を利用してよかった」と喜ばれることを掲げ、入居者一人ひとりの暮らし方を尊重し、職員が優しく声を掛けながら、笑顔で暮らせるよう日々取り組んでいる。現在は新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルス感染症予防の観点から、地域との交流を自粛しているが、今後は感染症の状況を見ながら積極的に地域住民との交流を再開し開かれたホームづくりを目指す意向である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念に基づいた支援を行っている。入居者様最優先の仕事をする事で、入居者様ご家族様が利用して良かったと喜んで頂けるよう実践に努めている。	法人理念、事業所理念に基づいた支援を行っている。入居者様最優先の仕事をする事で、入居者様ご家族様が利用して良かったと喜んで頂けるよう実践に努めている。	毎月第4水曜日に職員会議を開催し、理念を念頭に入居者及び家族を最優先に支援するよう全職員に周知し取り組んでいる。年間研修計画を立て、eラーニングを活用しながら職員の資質向上に取り組み、理念を現場で実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の方々との交流は困難であったが、神社への参拝や散歩中には挨拶を交わしている。地域の方々から季節の果物などの差し入れを頂くこともある。	新型コロナウイルスの影響で、地域の方々との交流は困難であったが、神社への参拝や散歩中には挨拶を交わしている。地域の方々から季節の果物などの差し入れを頂くこともある。	新型コロナウイルス感染症の影響により地域住民との交流が困難な状況ではあるが、ホーム周辺を散歩したり、神社への参拝や駐車場のプランターの水やりのほか、近隣コンビニエンスストアへの買い物時には地域住民と挨拶や言葉を交わすなど、職員や入居者が地域の一員として受け入れられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で、実践できていない。	新型コロナウイルスの影響で、実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面配布ではあるが、委員の方々から意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	書面配布ではあるが、委員の方々から意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	新型コロナウイルス感染症の影響により運営推進会議は書面会議で開催している。参加者は家族代表、地域の特別養護老人ホームの管理者、西部地域包括支援センター職員、諫早市多良見支所職員、地域の区長が出席している。会議ではホーム現状報告、行事やヒヤリハット・事故報告、消防署視察などの報告を行っている。	運営推進会議においても身体拘束適正化の取り組みを報告し、適正な運営であることを示すことが望まれる。また、書面会議においても各委員と双方向の意見交換ができるよう、例えば資料と一緒に意見や質問等の記入用紙を同封し、出された質疑への応答内容を次の議事に反映するなど可能な限り双方向の会議となるよう取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告は、メールやFAXで行っているが、相談事は、窓口に出向きアドバイスを受けるなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	報告は、メールやFAXで行っているが、相談事は、窓口に出向きアドバイスを受けるなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	管理者は毎月1回は諫早市多良見支所に出向いて介護福祉の担当職員と意見交換を行っている。運営に関する相談事などは日頃より電話やメール、FAXを通じて行政担当者と連絡を取り合い、ホームの実情を伝えており、協力関係を築いている。地域の派出所には半年ごとに管理者が訪問し、顔の見える関係づくりを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	eラーニングを活用した学習の他に、身体拘束廃止委員会による研修会を年2回以上実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	eラーニングを活用した学習の他に、身体拘束廃止委員会による研修会を年2回以上実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームでは身体拘束の無いケアに取り組んでおり、身体拘束廃止委員会を3か月に1度開催し、実践状況を報告している。年2回、全職員にeラーニングによる研修会への参加を義務づけ、ケアの質の向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止のための指針を作成し、令和3年10月1日より「虐待防止委員会」を組成、身体拘束廃止委員会と一体的に活動している。虐待の芽チェックを定期的に行ない、防止に努めている。	虐待の防止のための指針を作成し、令和3年10月1日より「虐待防止委員会」を組成、身体拘束廃止委員会と一体的に活動している。虐待の芽チェックを定期的に行ない、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ活用する機会はないが、今後、外部の研修会に参加し、学ぶ機会を持ちたい。	今のところ活用する機会はないが、今後、外部の研修会に参加し、学ぶ機会を持ちたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に十分な説明を行っている。リスク等にもご理解・ご納得頂いている。	管理者が契約時に十分な説明を行っている。リスク等にもご理解・ご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置しているが、あまり投函がないのが現状。入居者様やご家族様が気兼ねなく意見を言える関係づくりに努めている。	玄関ホールに意見箱を設置しているが、あまり投函がないのが現状。入居者様やご家族様が気兼ねなく意見を言える関係づくりに努めている。	入居者の意見は毎日の支援の中で職員が聴き取り、管理者に報告している。家族との面会時や、毎月の利用料支払い時に、職員が家族へ必ず声を掛けて入居者の様子を伝えており、その際に把握した意見や要望は管理者へ報告して可能な範囲でホームの運営に活かすよう取り組んでいる。	第三者評価の受審状況を重要事項として家族等へ説明することが求められていることを踏まえ、今後、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、受審時には家族アンケートを実施して家族の意見を汲み取る機会となることを説明することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。代表が参加できない時は、管理者が報告を行っている。	施設会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。代表が参加できない時は、管理者が報告を行っている。	管理者は職員の意見を把握するため、無記名のアンケート調査の実施や、職員と個別に対話する機会を設けている。ホームのハラスメント対策は医療法人本部に対応する部署を設けており、いつでも相談や対応できる環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し代表者は、職員個々の状況を把握している。フィードバック面接により、向上心をもってもらう事や、資格の取得をし易い勤務形態にし働きやすい環境を整えるよう努めている。	人事考課制度を導入し代表者は、職員個々の状況を把握している。フィードバック面接により、向上心をもってもらう事や、資格の取得をし易い勤務形態にし働きやすい環境を整えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関する情報を提供し、外部研修への積極的な参加を促している。認知症の理解を深めるため、認知症実践者研修に毎年職員に参加してもらい育成を進めている。	研修に関する情報を提供し、外部研修への積極的な参加を促している。認知症の理解を深めるため、認知症実践者研修に毎年職員に参加してもらい育成を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近企業面談の時に同業者とのネットワークづくりを行っている、しかし訪問等の活動は出来ていない。電話等での情報交換により、サービスの質の向上に努めている。	最近企業面談の時に同業者とのネットワークづくりを行っている、しかし訪問等の活動は出来ていない。電話等での情報交換により、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を確認し、入居時に本人様から不安や要望をお伺いしている。ゆっくりと傾聴させて頂き、安心して生活できるよう努めている。	事前に情報を確認し、入居時に本人様から不安や要望をお伺いしている。ゆっくりと傾聴させて頂き、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様から不安や要望をお伺いしている。話しやすい雰囲気づくりに努めている。	入居時にご家族様から不安や要望をお伺いしている。話しやすい雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の思い、状況等を確認し困っていることや不安なことに対して、できることは速やかに実行している。	本人様やご家族様の思い、状況等を確認し困っていることや不安なことに対して、できることは速やかに実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務に追われる中でも、入居者様に関心を寄せながら一緒に過ごすことを心掛けている。入居者様に洗濯物たたみなどの役割を担って頂くことにより、お互い感謝するという関係性を築いている。	業務に追われる中でも、入居者様に関心を寄せながら一緒に過ごすことを心掛けている。入居者様に洗濯物たたみなどの役割を担って頂くことにより、お互い感謝するという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で制限がある中でも、電話や面会時に、入居者様の様子をきめ細かく伝えるなど一緒に支えていく関係を築けるように努めている。	コロナ禍で制限がある中でも、電話や面会時に、入居者様の様子をきめ細かく伝えるなど一緒に支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの場所への外出は控えている。県内の感染状況にもよるが、ご家族様や知人となるべく関わられるよう、面会への配慮は行っている。	コロナ禍で馴染みの場所への外出は控えている。県内の感染状況にもよるが、ご家族様や知人となるべく関わられるよう、面会への配慮は行っている。	入居前に関わりがあった入居者の友人や、馴染みの知人等と交流できるようホーム入口にビニールパーテーションを設置し、感染対策を講じて15分間対話ができるよう取り組んでいる。入居者の希望で、孫が家を建てたとのことで、新築した家をドライブしながら見に行くなど、個別支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を踏まえ、入居者様同士の関係が円滑になるために食堂の席を配慮したり、会話などの橋渡し、時には、ぶつかり合いを回避したり、仲を取り持つなどの支援を行っている。	一人ひとりの個性を踏まえ、入居者様同士の関係が円滑になるために食堂の席を配慮したり、会話などの橋渡し、時には、ぶつかり合いを回避したり、仲を取り持つなどの支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、相談や支援に応じる姿勢を示している、退所後に本人様を訪問したりご家族のご相談を聞く事に努めている。	退居時に、相談や支援に応じる姿勢を示している、退所後に本人様を訪問したりご家族のご相談を聞く事に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と馴染みの関係を築き、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。日々の行動や表現から思いを汲み取り、入居者様の視点に立って話し合っている。	入居者様と馴染みの関係を築き、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。日々の行動や表現から思いを汲み取り、入居者様の視点に立って話し合っている。	管理者は利用開始時に、入居者と一緒に過ごしながらかその方の暮らしに対する思いや意向を把握して全職員に伝えており、本人本位の支援ができるよう努めている。日々の支援の中で、担当職員が気づいた入居者の思いは職員間で共有し、支援に活かせるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のB-3シート(私の暮らし方シート)などを使用して情報を収集し、馴染みの暮らし方に近づけるよう支援している。	センター方式のB-3シート(私の暮らし方シート)などを使用して情報を収集し、馴染みの暮らし方に近づけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、食事量、排泄状況等により健康状態を把握している。1日の過ごし方を観察し、心身の小さな変化も見逃さないよう心がけている。	バイタル測定、食事量、排泄状況等により健康状態を把握している。1日の過ごし方を観察し、心身の小さな変化も見逃さないよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続けるための個別の介護計画を作成するよう努めているが、まだまだ勉強不足である。	その人らしく暮らし続けるための個別の介護計画を作成するよう努めているが、まだまだ勉強不足である。	ホームのケアマネジャーが直接入居者や家族と対話したり、入居者の担当職員が情報収集した後に課題分析を行い、入居者一人ひとりが本人本位に暮らし続けられるよう介護計画を作成している。介護計画は共用空間の収納スペースに保管し、職員がいつでも介護計画を確認して日々の支援を実践できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記入し、職員間で情報を共有しているが、PDCAサイクルの重要性に対する理解は、まだまだ不十分と感じている。	ケア記録に記入し、職員間で情報を共有しているが、PDCAサイクルの重要性に対する理解は、まだまだ不十分と感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物支援等、一人ひとりに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。	病院受診や買い物支援等、一人ひとりに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加や馴染みの店でのふれあいボランティアの受入れ等は、コロナ禍で実施できていない。	地域の行事参加や馴染みの店でのふれあいボランティアの受入れ等は、コロナ禍で実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様とご家族様に対し、協力病院へ変更することを説明し同意を得ている。その他の要望等に対してできる限り対応をしている。	入居者様とご家族様に対し、協力病院へ変更することを説明し同意を得ている。その他の要望等に対してできる限り対応をしている。	入居者や家族の希望に応じたかかりつけ医を受診できるよう支援している。協力医とのオンライン診療や、毎週訪問看護による体調管理を実施する支援があり、適切な医療を受ける体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護、協力病院と連携し、一人ひとりの健康管理や医療的な支援を行っている。	看護職員、訪問看護、協力病院と連携し、一人ひとりの健康管理や医療的な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーで情報を提供している。入院中もご家族や医療機関に状況を確認し、早期退院できるよう努めている。	入院時は介護サマリーで情報を提供している。入院中もご家族や医療機関に状況を確認し、早期退院できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取り介護に関する指針を用いて説明し同意を得ている。入居者様ご家族様の意向を確認し対応方針の共有を図っている。	入居時に重度化・看取り介護に関する指針を用いて説明し同意を得ている。入居者様ご家族様の意向を確認し対応方針の共有を図っている。	ホームでは看取り支援を実施しており、看取りに関する指針やマニュアルを整備し、職員研修を実施してケアの向上に努めている。入居時及び看取り期となった場合に、家族へ看取りに関する説明を行い、家族の意向を確認した上で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時にAEDの研修を実施したる、動画によるAEDの使用法や救急時の対応は行っている、今年度は12月動画によりAEDの研修を行う。	開設時にAEDの研修を実施したる、動画によるAEDの使用法や救急時の対応は行っている、今年度は12月動画によりAEDの研修を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回消防署立会いの下、避難訓練を実施している。参加できなかった職員に対しては訓練実施報告書をもとに伝達講習を行っている。入居者様の情報を集約した名札を作成し有事に備えている。今年度は8月に予定していたが、職員のコロナウイルス感染によって12月へ変更予定。	年2回消防署立会いの下、避難訓練を実施している。参加できなかった職員に対しては訓練実施報告書をもとに伝達講習を行っている。入居者様の情報を集約した名札を作成し有事に備えている。今年度は8月に予定していたが、職員のコロナウイルス感染によって12月へ変更予定。	消防訓練により、昼夜において入居者を安全に避難誘導できるよう取り組んでいる。参加できなかった職員には、訓練の実施報告書をもとに伝達し、周知に努めている。万一、災害時において備蓄品が不足した場合は隣接するコンビニエンスストアから優先的に得られるよう依頼しており、了承を得ている。	緊急時における地域住民との連携を図るため、近隣住民や民生委員、隣接するコンビニエンスストア等との協力体制を築くことを期待する。また、火災などの緊急時における職員の役割分担に関し、例えばホームの勤務体制に応じた役割分担とするなど災害時に即応できる体制づくりに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけたり、不快感を与える言葉に注意して言葉かけを行っている。プライバシー保護マニュアルを作成、周知徹底している。	自尊心を傷つけたり、不快感を与える言葉に注意して言葉かけを行っている。プライバシー保護マニュアルを作成、周知徹底している。	入居者の人格を尊重し、職員が入居者へ声を掛ける際は苗字に“さん”を付けている。入居者のプライバシー保護の為、居室の目に見える位置にオムツを置かないよう収納している。入居者の写真を掲示するにあたり、事前に個人情報の使用に関する同意を得て支援している。	日中使用しないポータブルトイレが居室内のベッド足元に設置されていた。入居者の尊厳やプライバシー保護のためにも、直接目に触れないよう目隠しや収納するなど配慮することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の訴えや思いを聞き入れ、出来る限り自己決定の場面が提供できるように心掛けている。 月1回ではあるが入所者様と話し合いの場を持ち、やりたいことや、食べたい物などの話を聞きケアに活かしている。	入居者様の訴えや思いを聞き入れ、出来る限り自己決定の場面が提供できるように心掛けている。 月1回ではあるが入所者様と話し合いの場を持ち、やりたいことや、食べたい物などの話を聞きケアに活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどへの参加は、入居者様の意思を尊重している。入居者様の体調や気分を把握し希望に沿った支援を心がけている。	レクリエーションなどへの参加は、入居者様の意思を尊重している。入居者様の体調や気分を把握し希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望や好みを大切に、清潔を心がけて季節や場所に適した身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	入居者様の希望や好みを大切に、清潔を心がけて季節や場所に適した身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で野菜を育てて入所者様と収穫し食べたり、ご近所のかたにご提供いただいた野菜や果物など皮むきを職員と一緒に楽しみながら季節を感じて頂いている。	施設内で野菜を育てて入所者様と収穫し食べたり、ご近所のかたにご提供いただいた野菜や果物など皮むきを職員と一緒に楽しみながら季節を感じて頂いている。	食事は季節感のある食材にて提供し、必要に応じてペーストやミキサー、刻み食など、入居者一人ひとりの状態に合わせた調理法を工夫している。年末には土鍋を用いた鍋料理や、夏には竹を使用した素麺流し、春にはつわの皮むきを入居者職員が一緒に行うなど、食事を楽しめるよう取り組んでいる。食事中は食事に集中できるようテレビを消して音楽を流すなど配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、記録に残し職員間で情報を共有している。数種類の飲み物を用意し好みのものを提供、水分不足が起こらないよう支援している。	食事は、記録に残し職員間で情報を共有している。数種類の飲み物を用意し好みのものを提供、水分不足が起こらないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、入居者様の力量に応じて、見守りや介助を行っている。協力歯科医と連携し、助言を頂いている。	毎食後歯磨きの声かけを行い、入居者様の力量に応じて、見守りや介助を行っている。協力歯科医と連携し、助言を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄について記録を残し、一人ひとりの間隔や兆候など排泄パターンの把握に努めている。可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	排泄について記録を残し、一人ひとりの間隔や兆候など排泄パターンの把握に努めている。可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	タブレット3台を活用した介護記録にて「排泄記録」を残している。職員は入居者の排泄状況を把握し、一人ひとりのパターンに応じた声掛けや介助により、トイレでの排泄を促し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や身体を動かすために集団体操を行ったり、自然排便を促すための支援を行っている。排便困難な方は、センナ茶を提供している。	水分補給や身体を動かすために集団体操を行ったり、自然排便を促すための支援を行っている。排便困難な方は、センナ茶を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予定は立てているが、入居者様の様子やタイミング、意思を確認し柔軟に対応している。	予定は立てているが、入居者様の様子やタイミング、意思を確認し柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本として予定を立てているが、入居者のその日の体調や気分に応じて入浴日を変更するなど、柔軟に対応している。重度化しても浴槽に浸ることができるよう機械浴を設置している。入浴が楽しめるよう浴室の窓に歌詞を貼り、入居者が鼻歌を歌いながら気分よく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や衣類、室温等を調整し、一人ひとりの生活リズムに配慮した支援を行っている。日中も状態により休息を促している。	寝具や衣類、室温等を調整し、一人ひとりの生活リズムに配慮した支援を行っている。日中も状態により休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をいつでも確認できるよう保管し、ミスがないようマニュアルに沿って支援を行っている。受診時等に、日々の様子を主治医に伝え、お薬の調整をして頂いている。	お薬情報をいつでも確認できるよう保管し、ミスがないようマニュアルに沿って支援を行っている。受診時等に、日々の様子を主治医に伝え、お薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力や性格を把握し、得意な分野で力を発揮できるように、お手伝い等をお願いし、役割を担ってもらっている。	入居者様の能力や性格を把握し、得意な分野で力を発揮できるように、お手伝い等をお願いし、役割を担ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で近隣の散歩や公園への外出、買い物など支援を行っている。	可能な範囲で近隣の散歩や公園への外出、買い物など支援を行っている。	近くにある神社への参拝やコンビニエンスストアでの買い物など、近隣を散歩する支援を行っている。車で10分程度の場所にあるのぞみ公園へのドライブや、ドラッグストアでの買い物など、入居者の希望に応じて外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持されている方もいるが、ご家族様から当事業所で現金を少額を預り、理容代やご希望される物を購入できるように支援している。	個人で所持されている方もいるが、ご家族様から当事業所で現金を少額を預り、理容代やご希望される物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等から電話があった場合は、子機を使用し居室で会話できるよう配慮している。個人で携帯電話を所持されている方は、自由にご使用され、必要時に支援を行っている。手紙やはがきの投函等の支援も行っている。	ご家族様等から電話があった場合は、子機を使用し居室で会話できるよう配慮している。個人で携帯電話を所持されている方は、自由にご使用され、必要時に支援を行っている。手紙やはがきの投函等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節を感じられる飾り付けをしている。リビングからフロアをおおかた見渡せる造りになっており、生活感のある空間を提供している。	壁に季節を感じられる飾り付けをしている。リビングからフロアをおおかた見渡せる造りになっており、生活感のある空間を提供している。	節分の様子や九州一周駅伝の応援の様子を撮影した写真を玄関に貼り、リビングの壁面には時季にちなんだ折り紙を飾るなど、入居者が季節の移り変わりを感じながら暮らせるよう支援している。共用部に設置しているエアコンは定期的に清掃し、また、空気清浄機を各階に2台設置するなど、清潔で過ごしやすい環境を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1F)	実践状況(ユニット名: 2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを、玄関ホールや廊下には椅子を設置し、一人ひとりが思い思いに過ごせる環境づくりを心がけている。	リビングにはソファを、玄関ホールや廊下には椅子を設置し、一人ひとりが思い思いに過ごせる環境づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた物や写真等を持ち込んで頂き、心地よく過ごせるよう支援している。馴染みの物の持ち込みがない場合でも入居者の意向を確認しながら、その人らしく過ごせる居室環境づくりに取り組んでいる。	入居者の使い慣れた物や写真等を持ち込んで頂き、心地よく過ごせるよう支援している。馴染みの物の持ち込みがない場合でも入居者の意向を確認しながら、その人らしく過ごせる居室環境づくりに取り組んでいる。	居室には入居者が使い慣れた家具やテレビ、大切な家族の位牌や写真などを持ち込むことができ、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。ベッドや家具の配置は、入居者一人ひとりの動線に応じて配置しており、清掃も職員が毎日行い、その人らしく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は、バリアフリーになっている。介助バーや手すりの設置など、入居者が安心安全に自立した生活が送れる環境づくりに努めている。	フロア内は、バリアフリーになっている。介助バーや手すりの設置など、入居者が安心安全に自立した生活が送れる環境づくりに努めている。		